

也。柚人互不怖與飯雜物喜食助斫木之用力甚強若敵之則大爲災所謂山獮之類小者乎。曰川太郎
是曰山童山川
異同類別物也。

〔本草綱目譯義五十一〕狒々

附錄山獮 ヤマヲヂ 筑前 ヤマヂバ 阿州 ヤマヂイ 讃州 九州又四國ニ多シ山深クツバク處

ニラル木曾ニモアリ常ノ人ヨリモ小ニシテ男ノ形裸也人ノ心中ニ思フコトヲサトル故鐵炮
ヲ知ドモ打コトナラズ柚人山中ニ入トキ火ヲ燒バ傍ニ來テ蟹ナドヲヤキテ食何事モ害ヲセ
ヌモノ也竹ヲ燒バ其節ノ音ニテヲツルナリ人ノ思コトハサトレドモ不意ニ音スル故逃ル
也正月十四日鷺朝トテ竹ヲ燒モ此ノ鬼ヲ除ク意ナリト俗傳也

〔西遊記三〕山童ワカ

九州極西南の深山に俗に山わるといふものあり薩州にても聞しに彼國の山の寺といふ所に
も山わろ多しとぞ其形大なる猿のごとくにして常に人のごとく立て歩行く毛の色甚黒し此
寺などには毎度來りて食物を盗みくらふ然れども鹽氣あるものを甚嫌へり柚人などは山深
く入りて木の大きなを切り出す時に峯を越へ谷をわたらざれば出しがたくて出しなやめる
時には此山わろに握り飯をあたへて頼めばいかなる大木といへ共輕々と引かたげてよく谷
峯をこし柚人のたすけとなる人と同じく大木を運ぶ時に必うしろの方に立て人より先に立
行事を嫌ふめしをあたへて是をつかへば日々來り手傳ふ先使終りて後に飯をあたふはじめ
に少々にても飯をあたふれば飯を食し終りて逃去る常には人の害をなす事なしもし此方よ
り是を打ち或は殺んとおもへば不思議に祟をなし發狂し或は大病に染み或は其家俄に火も
へ出など種々の災害起りて祈禱醫藥も及事なし此ゆへに人皆大におそれうやまいて手さす
事なし此もの只九州の邊境にのみ有りて他國に有ることを聞かず冬より春多く出るといふ